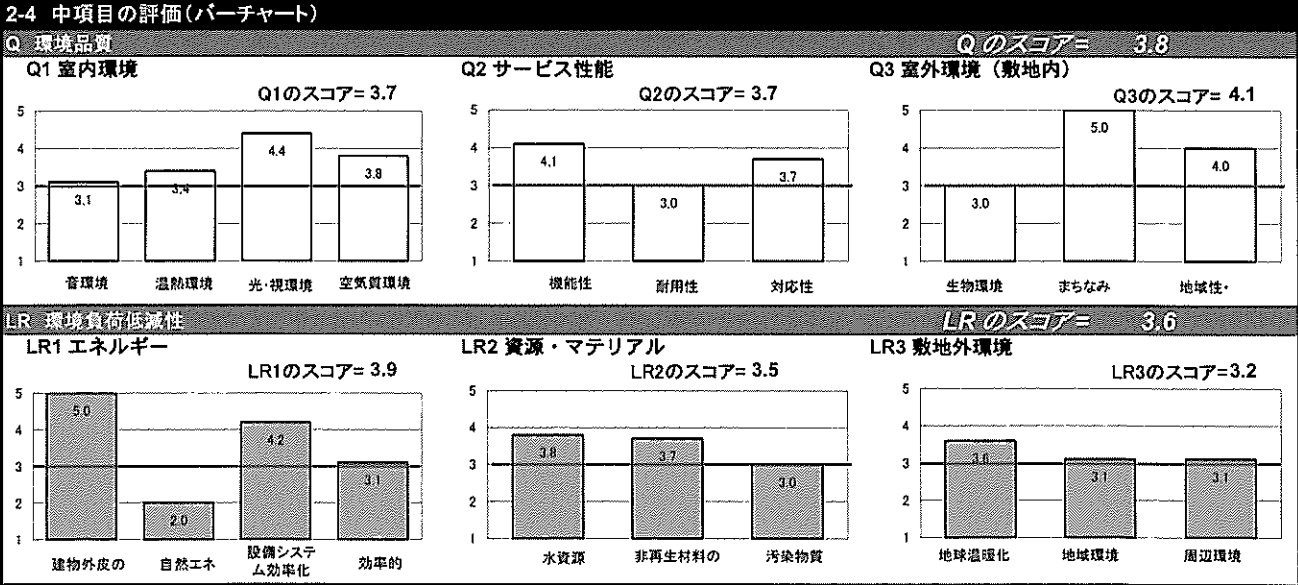
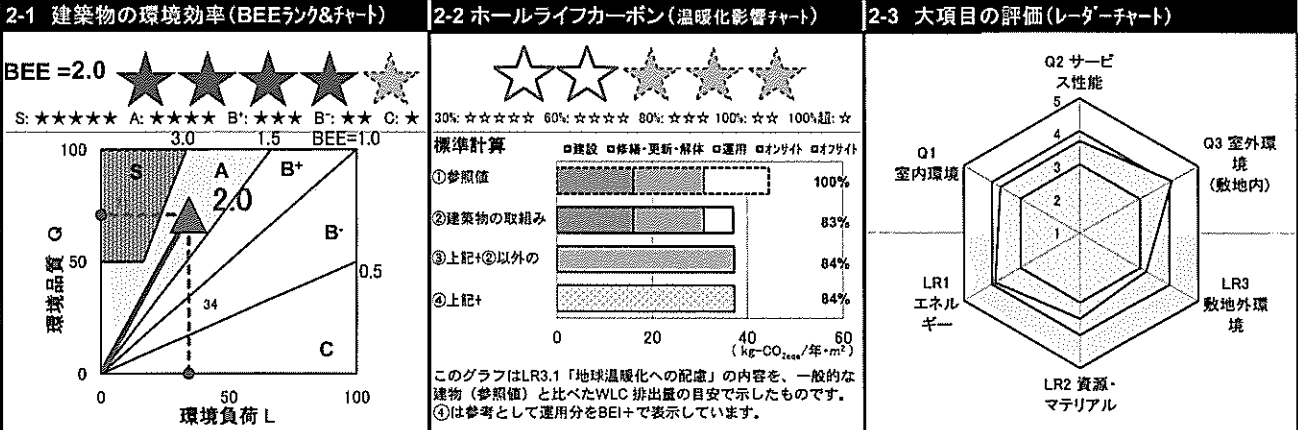


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	長岡京市立長岡第三小学校	階数	地上3F	
建設地	京都府長岡京市今里4丁目121他23	構造	RC造	
用途地域	準防火地域、第1種中高層住居専用	平均居住人員	463 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2029年12月 予定	評価の実施日	2026年2月25日	
敷地面積	18,242 m ²	作成者	石川 かれん	
建築面積	2,226 m ²	確認日	2026年2月27日	
延床面積	5,690 m ²	確認者	東 浩平	



3 設計上の配慮事項			その他
総合 さまざまな「ひと」「もの」「こと」とつながる学校をコンセプトに、児童の学習環境に配慮した教室配置や、交流の場となるオープンスペース、地域を感じる外構計画、防災機能を整備するなどの設計を行った。			
Q1 室内環境 快適な教育環境を実現するため、適切な温熱環境や光環境、換気性能などを確保します。	Q2 サービス性能 管理、メンテナンスのしやすい計画とし、快適な環境を維持しやすくします。	Q3 室外環境(敷地内) 積極的な敷地内緑化やビオトープの計画など敷地内の環境に配慮した計画とします。	
LR1 エネルギー 適切な省エネ計画によりエネルギーの使用効率を高めます。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の採用、再利用可能部材の利用など、資源の有効活用に努めます。	LR3 敷地外環境 防球ネットによる砂塵対策、適切な量の駐輪スペースと駐車場を確保し、敷地外環境に配慮した計画とします。	

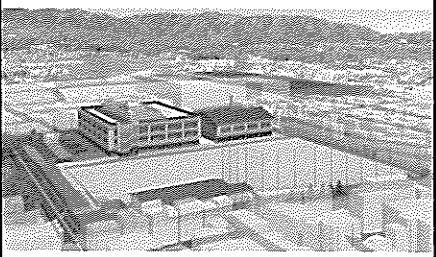
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市立長岡第三小学校	階数	地上3F
建設地	京都府長岡京市今里4丁目121他23	構造	RC造
用途地域	準防火地域、第1種中高層住居専	平均居住人員	463 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年12月 予定	評価の実施日	2026年2月25日
敷地面積	18,242 m ²	作成者	石川 かれん
建築面積	2,226 m ²	確認日	2026年2月27日
延床面積	5,690 m ²	確認者	東 浩平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

2-3 建築環境SDGsチャートリスト評価結果

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		
さまざまな「ひと」「もの」「こと」とつながる学校をコンセプトに、児童の学習環境に配慮した教室配置や、交流の場となるオープンスペース、地域を感じる外構計画、防災機能を整備するなどの設計を行った。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
快適な教育環境を実現するため、適切な温熱環境や光環境、換気性能などを確保します。	管理、メンテナンスのしやすい計画とし、快適な環境を維持しやすくします。	積極的な敷地内緑化やビオトープの計画など敷地内の環境に配慮した計画とします。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な省エネ計画によりエネルギーの使用効率を高めます。	節水型器具の採用、再利用可能部材の利用など、資源の有効活用に努めます。	防球ネットによる砂塵対策、適切な量の駐輪スペースと駐車場を確保し、敷地外環境に配慮した計画とします。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される